

第 24 回日本木材学会九州支部大会と平成 29 年度総会報告

第 24 回九州支部大会運営委員長 渡辺 浩（福岡大学）

九州支部では、平成 29 年 9 月 7～8 日に、福岡大学で第 24 回支部大会を開催いたしました。3 月に九州大学で本大会が開催されたことから、平成 22 年に続いて承った次第です。本部からは福島和彦会長にご参加いただき、ご挨拶のみならず全日程の討論にもご参加いただきました。お忙しい中、福岡まで足を運んでくださり感謝いたしております。

初日には 14 時からフェーズ I とフェーズ II の口頭発表、研鑽プログラム（公開講演会）と懇親会が行われました。また 2 日目にはフェーズ II の口頭発表とポスター発表が行われ、12 時に終了しました。参加者は 59 名、うち学生が 16 名でした。また懇親会の参加者は 35 名でした。

口頭発表では、フェーズ I で前回と同数の 1 件、フェーズ 2 で前回比-1 の 6 件、ポスター発表で前回比+2 件の 11 件の発表がありました。会場には平成 24 年度開館の中央図書館棟にある多目的ホールを使用しました。182 席の部屋ですが、後方の机を片付けてポスター発表会場としました。また、ポスター発表には 2 日目の最後の時間帯が割り当てられていましたが、発表者には開始前から終了までポスターを掲示していただき、初日のみの参加者にもご覧いただけるように、また休憩時間にも討論ができるようにしました。

初日の 15 時から、公開講演会を開催しました。テーマは運営委員長の独断で「土木用材・外構材への木材利用」をテーマとさせていただきました。テーマ設定の背景は以下の通りです。2010 年の公共建築物等木材利用促進法の制定以来、建築分野において木材は復権の兆しが見え始め、木材自給率も V 字回復の途上にあります。ところが、公共土木の分野においてはその気配を感じ取ることもできません。この理由に、耐久性に対する根強い不信感が挙げられます。かつては建設材料の主流であった木材が高度成長期に鋼材やコンクリートに取って代わられた直接的背景は資源と調達の問題にありました。が、結果的に泣き所であった耐久性が大きく改善されました。このような歴史的経緯から耐久性に関するネガティブイメージは相当に深いものがあります。また、近年の外構材の事例においても、長期の耐用年数が求められる一方でメンテナンスされることは少なく、かえって評価を下げているような例も少なくありません。これらはひとえに木材への無理解によるものですが、そうは言ってもこれを何とかしなければ未来志向の木材利用は進められません。

以上のことから本講演会では、2 名の講師に話題提供をいただいた上で討論を行いました。まず(株)九州構造設計 専務取締役の宮副一之氏からは「地盤改良工法への木材の活用～木材利用研究会（佐賀）の活動紹介～」と題して、研究会の活動の経緯、独自の設計マニュアル策定、実際の施工事例、既往の構造物の維持管理の事例等の紹介がありました。この佐賀の木材利用研究会は、軟弱地盤における木材利用の可能性を追求するために土木実務者により作られた国内でも稀少な研究会であり、注目すべき活動を展開されています。続いて、福岡県農林水産部 林業振興課参事の古賀央氏からは「福岡県における外構材等へ

の木材利用に関する取り組み」と題して、福岡県の森林、林業、木材産業の現状を踏まえた具体的な施策の紹介がありました。その後の討論では、県域を越えたオール九州での木材供給態勢の重要性や、土木用材に必要なスペックを明らかにすることで、建築用材と合わせてより多くの原木を活かすことができる建設用材需要の創出の必要性等が討論されました。

また、今回の大会から、発表・参加の申し込みがインターネット上で可能となるシステムを導入しました。全ての発表申込と 3/4 超の参加申し込みがシステム経由で行われ、運営委員会の業務が大幅に簡略化できました。

支部大会に引き続き、2 日目の午後には平成 29 年度総会が開催されました。総会では、平成 28 年度の事業報告および決算・監査報告、平成 29 年度の態勢、事業計画および予算案が審議、承認されました。平成 29 年度から 2 か年は支部長：堤祐司先生（九州大学）、副支部長：西野吉彦先生（鹿児島大学）の下で活動して参ります。

総会に引き続き、黎明研究者賞の表彰が行われました。本年度の受賞者は、下記のみなさまでした。おめでとうございます。今後のご活躍を期待しております。

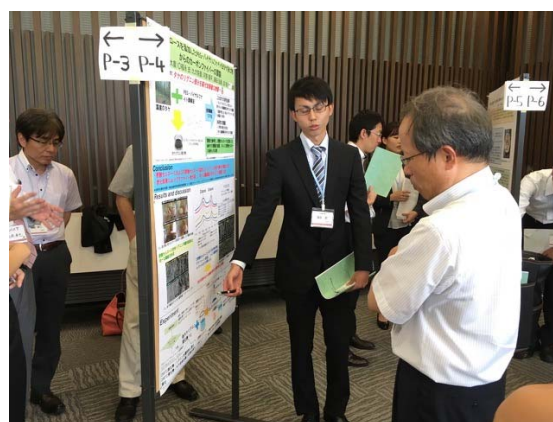
黎明研究者賞（論文）：岸川明日香さん（元九州大学）

黎明研究者賞（口答発表）：内 優里さん（九州大学）

黎明研究者賞（展示発表）：小林 舞帆さん（鹿児島大学）



会場の全景



ポスター発表の様子



黎明研究者賞の表彰式



総会の様子